

# 「風のゆうびん屋さん」 内容とあらすじ テスト対策ポイントを解説

## 「風のゆうびん屋さん」 あらすじ

### 作者（さくしゃ）について

「風の ゆうびん屋さん」は、たけした ふみこさんが 書いたお話だよ。

「風の ゆうびん屋さん」という絵本に、教科書に のっているこの「風の ゆうびん屋さん」の お話が 入っているよ。  
ほかにも 7つのお話が 書かれているから ぜひ 読んでみてね。

たけした ふみこ さんは、ほかにも 「黒ねこサンゴロウ」「みけねこレストラン」などの お話を かいているよ。

「ピン・ポン・バス」「せんろはつづく」などの のりもの絵本も たくさん かいているから、小さいころに 読んだことが ある人も いるかもしれないね。

### 登場人物（とうじょうじんぶつ）

#### ・【風の ゆうびん屋さん】

このお話の しゅ人公。風の じてん車に のって 手紙を  
はいたつするよ。

#### ・【あげはちょう】

パーティーの しょうたいじょうを もらった おしゃれな  
あげはちょう。



・【犬】

まごたちから はがきを もらった おじいさん犬。

・【すずめ】

すずめの 学校が はじまる おしらせをもらった すずめの  
おかあさんと 子すずめたち。

・【くも】

小さな みどりいろの ふうとうを もらった くも。風の  
ゆうびんやさんが はいたつしたときは、おひるね中 だったよ。

## あらすじ

風の ゆうびんやさん

作：たけした ふみこ 絵：つちだ よしはる

風の ゆうびんやさんは 風の じてん車にのって 手紙を はいたつしま  
す。

手紙で いっぱいの かばんをさげて どんな道でも すいすい はしるの  
です。

あげはちょうには パーティーの しょうたいじょうが とどきました。  
おじいさん犬には まごたちからの はがきが とどきました。  
すずめの おかあさんと 子すずめには 学校が はじまる おしらせが  
とどきました。

くもは おひるね中 だったので、風の ゆうびんやさんは くものすの  
はしっこに 小さな みどりいろの ふうとうを はさみました。

風の ゆうびんやさんは 口ぶえを ふきながら 元気よく はしってい  
きます。



## 「風のゆうびん屋さん」内容（ないよう）とポイント

「風の ゆうびん屋さん」の 場面分ごとに、内容ないようとポイントをかくにんしよう。

場面は、「場しょ」や「登場人物（とうじょうじんぶつ）」、「時間」などが かわったところをヒントにして かんがえるといいよ。

「風の ゆうびん屋さん」は 「登場人物」で 場面を考えると わかりやすいよ。

登場人物の 声は どんな声かな？

登場人物は どんな ようすかな？

思いうかべながら 読んでみよう。

登場人物の セリフや ようすから、登場人物の 気持ちも かんがえてみよう。

### だいの 場めん 風の ゆうびんやさんの しょうかい

だいの 場めんは 「風の ゆうびんやさんは」から「すいすい はしります。」まで。

【登場人物】風の ゆうびん屋さん

【ないよう】風の ゆうびんやさんは 風の じてん車に のって 手紙をはいたつするよ。

だいの 場めんでは、風の ゆうびんやさんに ついて しょうかいされているよ。



風の ゆうびんやさんが どんな ようすかという、 「風の じてん車にのって」 「リンリンと ベルを ならして ひゅうっと とおりすぎて」 いくんだね。

「リンリン」 は ゆかいそうな じてん車の ベルの 音だね。

「ひゅうっと」 は 風が ふくような音で、 なんだか かるくて さわやかな かんじがするね。

かばんは 手紙で いっぱいなのに、 ちっとも おもたそうでは ないんだね。

それから、 せまいみちでも、 さかみちでも 口ぶえを ふきながら すいすいはしるんだね。

みんなは 手紙がいっぱいの かばんを さげて じてん車を こげるかな？

さいしょは 元気に こげるかも しれないけれど おもくて だんだんつかれて しまいそうだよ。

おまけに せまいみちや さかみちだと さらに こぎにくいし、 ころびそうだし、 たいへんだよね。

でも 風の ゆうびんやさんは 「口ぶえをふきながら」 「すいすい」 はしているね。

「口ぶえを ふきながら」と あるから きっと たのしくて たまらないんじゃないかな。

「すいすい」 はしる ということは、 とまることなく はやいスピードで かるがると じてん車を こいでいるんだね。

つまり、 風の ゆうびんやさんは どんなみちでも 手紙が いっぱいの かばんも へっちゃらで、 はいたつを 心から たのしんで やっているんだね。



## だい二の 場めん あげはちょうが しょうたいじょうを もらう

だい二の 場めんは 『「あげはちょうさん、ゆうびんです。」』から「いそいそと したくを はじめます。」まで。

【登場人物】風の ゆうびんやさん・あげはちょう

【ないよう】あげはちょうは パーティーの しょうたいじょうを もらったよ。

だい二の 場めん から だい五の 場めん では、風の ゆうびんやさんは あげはちょう → 犬 → すずめ → くも のじゅんばんで 手紙を はいたつするよ。

「あげはちょうさん、ゆうびんです。」

風の ゆうびんやさんは あげはちょうに 手紙を はいたつしたよ。

あげはちょうが もらったもの	花びらみたいな いいにおいの 手紙
手紙の ないよう	こうえんで ばらの花がさいたから パーティーに来てほしいという しょうたいじょう

あげはちょうは「あら、うれしい。」「ぜひ行かなくちゃ。」と言ったね。パーティーに しょうたいされて とても よろこんでいることが わかるね。

「あら」「さいたんですって」「ぜひ」などと ていねいな ことばづかいをしているから じょうひんに よろこんでいる かんじがするね。

お話と いっしょに かかれている あげはちょうの 絵を 見ると、ニコニコして うれしそうだね。

あげはちょうは いそいそと したくを はじめたね。



「いそいそと」とあるから あげはちょうは パーティーが たのしみで  
心が ウキウキと はずんでいるんだね。

「パーティーが まちどおしくいわ。早く行きたいわ。」という 気持ちで  
いっぱい なんじゃないかな。

あげはちょうの セリフは じょうひんに やさしく よろこんでいるよう  
すを おもいうかべて 音読（おんどく）しよう。

### だい三の 場めん おじいさん犬が まごから はがきを もらう

だい三の 場めんは、『「犬さん、ゆうびんです。」』から「なんども な  
んども はがきを 読みなおします。」まで。

【場しょ】にわの 犬ごや

【登場人物】風の ゆうびんやさん・おじいさん犬

【ないよう】おじいさん犬は まごたちからの はがきを もらったよ。

「犬さん、ゆうびんです。」

風の ゆうびんやさんは おじいさん犬に 手紙を はいたつしたよ。

犬が もらったもの	まごたちからの はがき
手紙の ないよう	みんな 元気に くらしている

おじいさん犬は 「みんな、元気に くらして います、か。うん。よかつ  
た、よかった。」と言ったね。

そして 目をほそくして なんども なんども はがきを 読みなおした  
ね。

「目を ほそくして」とは、 うれしいことがあって 目が ほそくなるく  
らい 顔のぜんぶで ほほえむ ということだね。

おじいさん犬は まごたちが 元気だと わかって うれしいんだね。



お話といっしょに かかれている おじいさん犬の絵を 見ると ニコニコ  
ほほえんでいるよね。

「なんども なんども はがきを 読みなおした」という ようすからも、  
「まごたちが げんきなことが なにより うれしいな」と 思っているこ  
とが わかるね。

その うれしい きもちを 心のそこから あじわうように なんども よ  
んだんだね。

そして、なんど よんでも よむたびに うれしい気持ちに なっているん  
じゃないかな。

おじいさん犬は まごたちを とてもだいに おもっているんだなと そ  
うぞうできるね。

おじいさん犬の セリフは まごを だいに思って ほほえんでいる よ  
うすを おもいうかべて 音読しよう。おじいさんだから ゆっくりと 読  
んでもいいね。

だい四の 場めん すずめが 学校が はじまる おしらせを も  
らう

だい四の 場めんは、『「すずめさん、ゆうびんです。」』から「おかあさ  
んのまわりを ぴよんぴよん とびまわりました。」まで。

【場しょ】やねの上

【登場人物】風の ゆうびんやさん・すずめの おかあさん と 子すずめ  
たち

【ないよう】すずめのおかあさんと 子すずめが 学校が はじまる おし  
らせを もらったよ。



「すずめさん、ゆうびんです。」

風の ゆうびんやさんは すずめのおかあさんと 子すずめに 手紙を はいたつしたよ。

すずめが もらったもの	手紙
手紙の ないよう	すずめの 学校が はじまる

子すずめたちが 「学校って、なあに。」と聞くと、  
すずめの おかあさんは 学校が どんなところか 教えたね。  
子すずめたちは 「わあ、おもしろそう。早く行きたいな。」と 言った  
ね。

学校が おもしろそうな ところだと わかって 学校に 行くのが たのしみに なったんだね。

そして、みじかい はねを ひろげて おかあさんのまわりを ぴよんぴよん とびまわったね。

みんなも、とびきり うれしいことや たのしみなことが あると、「やったー！」と ジャンプやばんざいを したり、じっとして いられないほど ウキウキしたり したことが あるんじゃないかな？

同じように 子すずめたちも、学校に 行けることが とびきり うれしくて まちきれないんだね。

「ぴよんぴよん とびまわる」ほど、ワクワクが とまらないんだね。

お話と いっしょに かかれている絵を 見ると、おかあさんも そんな子すずめたちを見て うれしそうに ニコニコしているね。

すずめの セリフは 思わず とびはねて よろこんでいるところを 思い  
うかべながら 音読しよう。





## だい五の 場めん くもが みどりいろの ふうとうを もらう

だい五の 場めんは、「リンリン。」から「小さな はっぱが ひっかかっているだけだと おもうかも しれません。」まで。

【場しょ】くものす

【登場人物】風の ゆうびんやさん・くも

【ないよう】くもが おひるね中だったから、風の ゆうびんやさんは くものすの はしっこに、小さな みどりいろの ふうとうを はさんだよ。

「くもさん、ゆうびんです。おや、くもさんは、おひるね中だ。」

風の ゆうびんやさんは くもに 手紙を はいたつしに 来たよ。  
けれども、くもは おひるね中だったね。

くもが もらったもの	小さな みどりいろの ふうとう
手紙の ないよう	(書いていない)

そこで、風の ゆうびんやさんは くものすの はしっこに、小さな みどりいろの ふうとうを ていねいに はさんだね。

なぜかという、くもが 目を さましたら、すぐ 気が つくように するためだね。

なぜ 風の ゆうびんやさんは くもが すぐ 気がつくように はいたつしたのかな？

それは きっと 「目をさまして、手紙を 見つけたら くもさん 大よろこび するだろうな。」と 思ったんじゃないかな。

「ていねいに」という ようすからも ゆうびんやさんの やさしい気もちが わかるね。



この 場めんは、ねているくもや くものために ていねいに はいたつする ゆうびんやさんをおもいうかべて やさしく音読しよう。

くもが 手紙を 読むところは、お話の中に 書かれていないけれど、目をさました くもは どんな気もちになるかな？

きっと「わーい！ 手紙が とどいている！うれしいな。」「だれからかな？早くあけたいな。」「ゆうびんやさん、ありがとう！」と よろこんだり はしゃいだり するんじゃないかな。

くもに ちよくせつ 手紙を わたすことは できなかったけれど 風の ゆうびんやさんは そんな くもの ようすを そうぞうしながら、心をこめて はいたつ したんだね。

だい六の 場めん 風の ゆうびんやさんは 元気よく はしっていく

だい六の 場めんは、「はいたつする手紙は」から「元気よく はしっていきます。」まで。

【登場人物】風の ゆうびんやさん

【ないよう】はいたつを つづける 風の ゆうびんやさんは 元気よく はしっていくよ。

さいごの だい六の 場めんでは 風の ゆうびんやさんが はいたつをつづけるようすが 書かれているよ。

風の ゆうびんやさんは、口ぶえを ふきながら、元気よく はしっていくんだね。



だいの 場めんと 同じように 「口ぶえを ふきながら」とあるから、  
風の ゆうびんやさんは たのしい気もちなんだね。

きっと「つぎの はいたつは ○○さんだ。早く 手紙を とどけて よろ  
こんで もらいたいな。」「みんなに よろこんでもらえる ゆうびんはい  
たつは たのしいな。」「大すきな しごとだな。」という 気もちで は  
いたつして いるんじゃないかな。

風の ゆうびんやさんの しごとは みんなに 手紙を とどけるだけでな  
く、手紙を うけとった みんなに うれしい気もちや しあわせな気もち  
も とどける すてきな おしごとなんだね。

「あげはちゃん、ゆうびんです。」「犬さん、ゆうびんです。」「すず  
めさん、ゆうびんです。」「くもさん、ゆうびんです。」という 風の ゆ  
うびんやさんの セリフは 「手紙を とどけるのは たのしい」「みんな  
に よろこんでもらえるのが うれしい」という 気もちが つたわるよう  
に 明るく 元気に イキイキと 音読すると いいね。

## 「風のゆうびんやさん」意味調べ

「風のゆうびんやさん」で 出てくる ことばの いみを かくにんしよ  
う。

ことば	いみ
はいたつ	手紙や、にもつを きめられた ところに くばること
ちっとも	すこしも。ぜんぜん。
いそいそ	うれしいことが あって、わくわくして うごく ようす
したく	よういを すること
木かげ	木の かげ
ていねい	うごきや たいど、しごとの やりかたが ざつではないこと
目をさます	ねむっている じょうたいから おきること

